県政だより

静岡県弘報紙　1954年　1月号　第65号

発行　静岡県　編集　静岡県総務部弘報文化課　印刷　大村活版印刷所

昭和29年1月15日発行　毎月15日発行　昭和24年7月19日第三種郵便物認可

自力再建県民運動

県民の皆さん。私たちの家庭や郷土を明るく住みよくするにはどうしたらよいかということを真剣に考えましよう。そしてお互協力して自信をもつて実行しましよう。今年は国や県の予算も大巾に縮められます。耐乏生活の年です。再建のため歯をくいしばつて頑張りましよう。

この弘報紙は回覧してみんなでよみましよう。

県民自力再建の年

一月十九日県庁で静岡県婦人団体連絡協議会長川野辺さん静岡県青年団連絡協議会長海野さんが斎藤知事を囲み、昭和二十九年度の縣政を中心に語り合いました。

川野辺　十六日には吉田総理が静岡に見えて、今年の緊縮財政について色々お話がありましたが、国の方で緊縮予算を組めば県の方に響き、引いては私たちの家庭にまで影響して来ると思いますが、県では一体どんな構想で予算を組まれつつもりですか。

知事　国が緊縮予算を組んだということは、云い換えれば国民に耐乏生活を求めたことです。今年の緊縮予算で地方には相当の影響が予想されます。しかし何らかの犠牲なくして大きな改革は出来ないものです。そこで私たち県民は如何にしてこれを克服していくかということが問題です。一口に一兆円の予算といいますがこのお金は莫大なもので、私は国の基本的な政策には変更はないと考えております。従つて本県の総合開発計画も多少の時間的ずれはあるかも知れませんが、予定通り遂行出来るものと考えております。然し、細かい点については、各方面にかなりの影響を及ぼすことが予想されます。

そこで今度はあなた方への要望ですが、青年諸君は心の切り換え、比較的早く出来るから、家庭内における主婦の立場と相まつて、今日の事態を充分に認識され、耐乏生活を克服していただきたいと思います。

総合開発計画を推進
基本的施策は變更なし

川野辺　私たちは婦人婦人会などを中心に如何なる耐乏生活にも耐え得られるような人造りに心掛けているのですが、今年もどうかそうした人造りに関係のある新年活学校等の予算にだけはしわ寄せのないように是非お願いします。

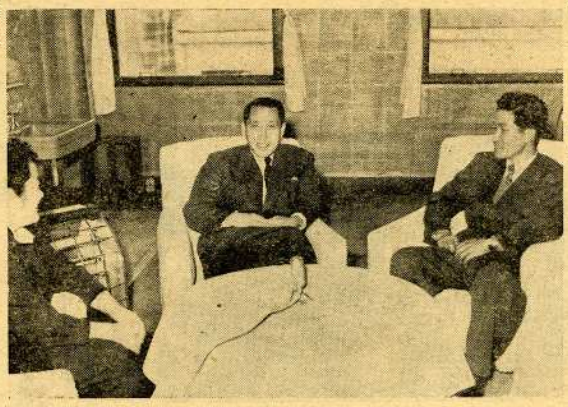
海野　知事さんのお話をまつまでもなくこの際自分たちの県は自分たちでやつていかなければならないということを強く打ち出すべき年であると考えます。

知事　あなたの仰言る通りで、自分たちの県のことは自分たちの力でやつて行かねばならないわけですが、財政的になて、平常の年であれば県では年末の金融難から特に積極的施策を実施する必要が痛感されましたので、現在行われている各種制度を最高度に活用するよう検討、改正を加えて、各金融機関に融資の促進方を強調しました。特に県費二千万円を県信用保証協会に預け信用保証協会にこの資金を運用させることによつて総額一億円を目標に中小企業の資金緩和を図つたのであります。

この内容は資金五百万円以下又は従業員数二百人以下の会社、個人、又は中小企業協同組合員に基く組合を対象とし、連盟申込は毎月二十日迄の締切とし、一件二百万円内、組合の場合は二百万円内（組合の場合は二百万円）の貸出を行う場合、保証協会は記載資金の中から貸出金額の二割以内をその金融機関に預託し、残りを保証を行うものでありましたが、この県の施策が発表されるや、直ちに金融機関が、同組合員に対し、個人、又は中小企業者に対して、この内容を説明し、この申込に対して保証協会及び関係金融機関は非常な努力を払い、且つ各方面の絶大なる協力をえて、十二月末までに融資の決定したものは七百七十九件、一億一千百三十八万円で、当初の目標を一割以上も上廻る好成績を収めたのであります。

中小企業振興に三千万円

勿論県としてもこれをもつて十分とは考えておらず、今後とも財政の許す限り適時適切な施策を実施したいと思つております。



（写真）向つて左より川野辺会長、斉藤知事、海野会長

住みよい郷土静岡県に

海野　総合開発計画は私たち青年に夢と希望を持たせてくれますが、今年実現することを具体的にお話いただけませんか。

知事　本県の二大河川を利用して佐久間、井川の発電事業については電力という国家的な要請もあつて、昨年に引続き工事は進捗していくものと考えております。唯一つこで私が常に考えていることは補償の問題であります。一部の犠牲になくして、被害を受ける者の立場を尊重して、その地方もよくなり国全体もよくなるようにしていきたいというのが私の信念です。又、富士山麓一帯も酪農地帯として出発出来るように決定しました。そして来年から四千頭内至六千頭の牛が入ることになりました。勿論そうなれば茶園一帯の農業経営も変つて来て、富士地域は、伊豆箱根など一連の観光地帯と一つながる一大観光圏が出来上ることになるでしよう。また伊豆の観光開発は、アプレ式な受け入れ主義的なものでなく、開発された後の姿の立派な国際観光地としていきたいと考えております。こうした一連の仕事がのべて来れば当然四三十一年頃には静岡県は電力の供給県となり

この弘報紙は一日お宅へとめて置いて、御主人はじめ御家族が讀まれてから、翌日、早く、お隣へお廻し下さい

日本の農業の進歩をさまたげていたといわれた地主制度も改められました。農業経営の改善と一口にいっても、それよりもっと大事な仕事で、しかもそれをやらなければ経営合理化の仕事が進められないものがあります。それは耕作地を集団化することであります。何はともあれ農業経営合理化に着手するときは初めに隣さんの耕地に向って「集れ！」の号令をかけて下さい。そうしないとどんな立派な計画を立ててもテンデンバラバラの耕作地は皆さんのいうことを聞きません。しかしながら隣さんが一人々々勝手に号令を掛けても駄目です。部落内の農家が一致して集団化しないと一人でもつ冠りの曲った人がいると百姓競走に負けると同じように完全な集団化は出来ません。それには互に納得のいくまで意見を交換し合いましょう。研究もしましょう。ただ耕地を一つ所にまとめればよいだろうという、そんないい加減なあてずっぽ的な集団化をはいけません。耕作地の交換分合に、部落や村の農業を改善進歩させるためのすべての計画に関係して来ますから、交換分合計画の仕事は農業委員会や、協同組合、又は土地改良区が受持つのが一番適当なのです。かといってそれに任せ切りではいけません。仕事はどこまでも皆さんの力になることを忘れなく。

先ず集れ！の号令を

ガラス張の政治を皆さんの聲を県政に

民主政治はガラス張りの政治です。カーテンの蔭で行われるのは独裁であり、専制です。国民は政治が何をしているかを知る権利があり、市町村民に協力する。

「マンホールのふたがなくなったまま、一週間もすてあってあぶなくて困っている」

「公衆便所をもっと清潔にしてほしい」というような要望を不満のあるのは、一見豆々で細かいことのようですが、住民のナマナマしい生活体験から生れて来る声だけに、自治行政のどこに穴があるか、また住民の関心が何に向けられているかを示す行政診断のバロメーターとなるものです。ほんとうの民主行政は、公聴をば針鋒とし、弘報を糸とし、農事放送を織り込んで、住民の声を織り込んで、住民の声を織り込んで、住民の声